

【経営比較分析表】の経営指標の説明

1. 経営の健全性・効率性		
	(算出式)	(指標の意味)
①経常収支比率(%)	経常収益／経常費用×100	経常収支比率は、当該年度において、給水収益や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標である。 当該指標は、単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要である。数値が100%未満の場合、単年度の収支が赤字であることを示しているため、経営改善に向けた取組が必要である。
②累積欠損金比率(%)	当年度未処理欠損金／営業収益×100	営業収益に対する累積欠損金(営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越利益剰余金等でも補填することができず、複数年度にわたって累積した損失のこと)の状況を表す指標である。 当該指標は、累積欠損金が発生していないことを示す0%であることが求められる。数値が0%より高い場合は、経営の健全性に課題があるといえる。
③流動比率(%)	流動資産／流動負債×100	短期的な債務に対する支払能力を表す指標であり、1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示し、100%以上であることが必要である。
④企業債残高対給水収益比率(%)	企業債現在残高合計／給水収益×100	給水収益に対する企業債(借入金)残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標である。
⑤料金回収率(%)	供給単価／給水原価×100	給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標であり、料金水準等を評価することが可能である。 当該指標は、供給単価と給水原価との関係を見るものであり、料金回収率が100%を下回っている場合、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていることを意味する。
⑥給水原価(円)	(経常費用－材料売却等－長期前受金戻入)／年間総有収水量	有収水量1㎡あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標である。
⑦施設利用率(%)	一日平均配水量／一日配水能力×100	一日配水能力に対する一日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標である。
⑧有収率(%)	年間総有収水量／年間総配水量×100	施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標であり、100%に近ければ近いほど施設の稼働状況が収益に反映されていると言える。 数値が低い場合は、水道施設や給水装置を通して給水される水量が収益に結びついていないため、漏水やメーター不感等といった原因を特定し、その対策を講じる必要がある。
2. 老朽化の状況		
①有形固定資産減価償却率(%)	有形固定資産減価償却累計額／有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価×100	有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標で、資産の老朽化度合を示している。
②管路経年化率(%)	法定耐用年数を経過した管路延長／管路延長×100	法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標で、管路の老朽化度合を示している。
③管路更新率(%)	当該年度に更新した管路延長／管路延長×100	当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標で、管路の更新ペースや状況を把握できる。 数値が1%の場合、すべての管路を更新するのに100年かかる更新ペースであることが把握できる。